

参考

令和3年11月に開催された県工業高校生徒発表大会・卒業生意見発表の部で講演された抄録である。

尚、ご本人は令和4年4月から九州大学大学院で研究を続けられるとのことでした。

工業の学びを生かし農業発展へ

鹿児島県立吹上高等学校 電子機械科平成30年卒業

鹿児島大学農学部 農林環境科 4年

草水 穂敬

自己紹介

平成30年、吹上高等学校電子機械科を卒業し、現在鹿児島大学農学部農林環境学科地域環境システム学コースに所属しております。草水穂敬（くさみずやすひろ）と申します。

高校進学 of 動機

吹上高等学校に入学した動機は、機械やものづくりに興味があったことと部活動が盛んであったことが理由の一つです。当時、「吹高だより」というパンフレットが中学校に定期的に配布され、高校での資格への取り組みや機械実習の内容、部活動での活躍が掲載されて興味関心が高まりました。また、高校卒業後は機械関係の職に就くことを考えていたので吹上高校電子機械科への入学を決めました。

高校入学後の取り組み

資格試験の取得に力を入れ、危険物やボイラー技士など興味がなくとも受験しました。大切なことは、失敗しても合格するまで受験したということです。部活動においては、日々の練習に励み、心身を鍛えました。顧問の先生には、県外遠征も多く経験させていただき、対戦相手の選手との大学入学後の再会もあり、人とのつながりの大切さを経験しました。学習においては、3年間の学びを形にできる課題研究に力を入れました。大人一人が乗れるサイズの鉄道模型をチームのメンバーと協力し製作し、一つの目標を皆で達成させたことにもものづくりの難しさと喜びを感じることができました。学習において大切なことは、点数を取ることもちろんですが、内容を理解することです。分かることが大切で、これが応用につながるのです。

大学進学、受験について

卒業後の進路については、旋盤や溶接などの専門分野の知識・技術を生かして効率化を図りたいと考え、衰退する一次産業である農業で機械を用い貢献できたらと大学の進学を決心しました。

鹿児島大学を受験するにあたり、工業系の学科と普通科との学習カリキュラムの違いに不安を感じ、大きな挑戦となりました。推薦入試という形で受験しましたが、農業の知識が必要だったので、面接、

口頭試問，小論文の対策にはかなり苦労しました。小論文については国語科の先生に指導を受け，100枚以上書きました。クラスメイトが進路を次々決定していく中，自分だけ決定していないことに押しつぶされないようメンタルの管理は重要でした。

大学生活について

普通科からの入学者が多く，専門高校の生徒との意識の違いや，サークル活動の規模の大きさが非常に新鮮でした。大学での講義は，工業科時代に経験していないレベルの数学や物理，そして英語は大変でしたが，大学進学が決まった際，吹上高校の先生方が個人レッスンをしてくださったおかげで単位を落とすこともありませんでした。工業から農業への進学でしたが，共通点も多く，工業土木寄りの感じます。実際，高校からの推薦では，農業科からよりも工業科からの進学者が増えてきているとのことでした。

卒業論文に関して

卒業論文は大学で学んだ「農業」と「機械」を生かした研究テーマで，収穫機械の開発に関する基礎研究を鹿児島県連はじめ，関係機関と協力し行っています。テーマの設定は，高校時代に思い描いていた農業に対し，機械というアプローチで効率化を図りたいという思いからでした。知識ゼロからのスタートで，大学の農場を用い，農業知識の深化を図りながら進めています。

工業高校生へ向けて

進学を目指した学校では，工業系専門は学ばないので，差を付けるのは専門の知識と技術です。しっかりと学ぶことで将来必ず役に立ちます。はじめにも話しましたが，資格取得にはしっかり取り組みましょう。履歴書の資格取得欄でのアピールポイントになります。次に進路選択についてですが，幅広い視野を持つことです。周囲に惑わされたり，求人票のみの情報では無く，自己理解を深め，希望と適性にあった進路選択をしてください。また，部活動は心身を鍛えるのに重要な活動になりますので積極的に取り組みましょう。最後に，高校生活をしっかりと楽しんでください。新型コロナウイルスの影響により，制限の多い学校生活でしょうが，前向きに捉え，この環境を利用した学校生活の楽しみを見つけ充実した学校生活になるよう努めてください。

ご静聴ありがとうございました

皆さんの進路選択になれば幸いです。本日はご静聴いただきありがとうございました。